

日本国際情報学会
国際開発研究部会 2022年度 第2回 研究報告会 報告書

国際開発研究部会 2022年度第2回研究報告会を下記のとおり開催しました。

記

1 部会目的

国際開発課題を経済開発と社会開発の両面から捉えて、ミレニアム開発目標(MDGs)や持続可能な開発目標(SDGs)を含む国際開発枠組み及び人間の安全保障・人権・社会開発のような開発理念をアプローチし、そして貿易と開発、技術移転・技術開発の促進、産業集積と地域経済発展、貿易障壁の削減の諸課題を経済学的な視点から理論・実証・政策の側面から研究する。

2 開催日時

2022年(令和4年)9月24日(土) 15時00分～17時20分

3 開催会場

日本大学通信教育部81講堂とZOOM(Web会議) ー同時開催ー

4 研究報告会〔各報告25分、質疑応答15分〕 (敬称略)

(1) 開会あいさつ(15:00～15:05)

陸 亦群 国際開発研究部会長・日本大学経済学部教授



今回も感染状況を踏まえ、対面とZOOMのハイブリッド開催とした。これにより日本各地から多くの方に参加していただきながら実施することができた。

本日は3名の方に発表していただく。それぞれ興味深い研究テーマであり、参加者の皆様との質疑も交え、報告内容を深めていただきたい。

(2) 研究報告会〔各報告25分、質疑応答15分〕 (敬称略)

司会者：部会幹事 齋藤高志

第1報告 (15:05~15:45) 【対面】

報告者：菊地原 正彦 日本大学大学院総合社会情報研究科前期課程

テーマ「ベトナムにおけるFDIと所得水準の相関性に関する一考察」



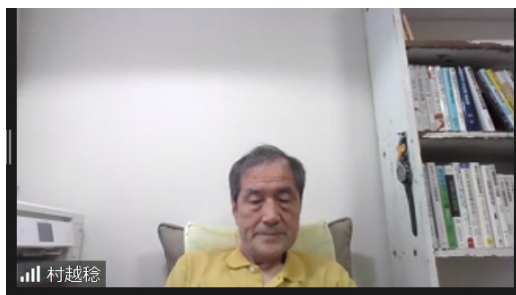
ASEAN 5カ国の外資流入が前年比で一番多かった年を基準年とし、所得構造が概ね同じ年での産業構造、工業化について分析した。その結果、ベトナムはASEAN先発国と比べ外資依存度が高く、産業では製造業貢献度が一番低く、農林漁業の貢献度が最も高いと結論付けた。

第2報告 (15:50~16:30) 【オンライン】

報告者：村越 稔 日本大学大学院総合社会情報研究科後期課程

テーマ「新シルクロード沿線地域の産業・貿易振興への日本の支援

— 物流課題の解決に向けて —



日本、中国、カザフスタンの分業体制について、生産工程別の分散立地が可能となった現代において、輸送手段の発達により日本から韓国、中国、中央アジア、ヨーロッパへと産業貿易ルートが結ばれ、対外輸送コストが低い国境付近で産業集積力が増すとした。

国際物流の強化策としてフリーゲージトレインと高速鉄道について検討した。

第3報告（16：35～17：15） 【対面】

報告者：吉澤 幸夫 日本大学大学院総合社会情報研究科後期課程

テーマ「指定管理者制度、20年目の一考察

— 制度としての住民、行政、事業者のwin-winの関係形成の可能性 —」



指定管理者制度が創設された2003年の経済指標と社会状況を分析した。行政は財政の健全化を指定管理者制度の目標としたとみられるが、受託する民間事業者も経費削減や自主事業の開催等で収益確保の機会があったとした。そのためにも行政、住民、指定管理者の連携が不可欠ではないかと指摘した。

(3) 閉会あいさつ 日本大学大学院総合社会情報研究科 准教授 前野 高章



本日は3つのテーマで報告がなされた。会場参加者だけでなくオンライン参加者とも質疑が活発に行われた。ZOOMとのハイブリッド開催によって、多くの皆様に参加の機会を提供できたと実感している。今後も部会活動を継続し、お互いに研究を深めていきたい。

5 参加者

14名（会場7名、ZOOM7名）

